

秋季大祭 理事長挨拶

於：救世会館

「秋季大祭」、おめでとうございます。

爽やかな秋風に吹かれ、夜ごと鳴く虫の音も心地よい季節を迎えました。

本日は、聖地・瑞雲郷において、全国の皆さまと共に大祭を執り行わせていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

ただ今は、メシアであられる明主様に結ばれた私共がこうして聖地に集い、私共一人一人のうちに成し遂げられている大光明輝く天国に、より一層心を向けることができるようにお計らいくださっている神様に対しまして、心からの喜びをご奉告させていただきました。

また、本日の大祭には、教主様にご出座賜っています。

教主様には、私共が明主様を模範とし、神様の子供たるメシアとして新しく生まれる養いを全身にお受けさせていただけるよう、いつも温かいお心をもってご教導くださっておりますこと、皆さまと共に心より感謝申し上げたいと存じます。

ここで、本日は皆さまに大変おめでたいお知らせがあります。

去る9月9日、教主補佐の岡田真明様、奥さまのママ様の間に、ご息女がお生まれになりました。皆さまとご一緒にお祝い申し上げたいと存じます。誠にありがとうございます。

お名前は、〇〇様でございます。ちなみに、明主様とのご関係を申し上げますと、玄孫に当たられます。

全国の皆さまと共に心からお慶び申し上げ、ママ奥さまの速やかなる産後のご快復と、〇〇様の健やかなご成長をお祈り申し上げたいと存じます。

先程は、全国の信徒の皆さまを代表して、〇〇さんが感謝奉告をしてくださいました。ありがとうございました。

〇〇さんは、日常生活のさまざまな事柄の中で、「祈りの言葉」や新しい「ご祈願書」を通して、全てを神様にご奉告し、委ねさせていただく「想念の御用」の実践についてご奉告くださいました。

〇〇さんは、教主様のご教導を通して、私共のさまざまな思いの元は神様にあること、私共の想念の出発点は神様であることに気付かれ、神様が私共の思いをお使いになってさまざまな人をお救いになっていることを知り、ご自身がいつも「天国人」としてお使いいただいていることに目覚めておられます。

私は、本日の感謝奉告をお聞きし、⑤之光教団の配布用「真善美」や「ご祈願書」に、何故「祈りの言葉」が掲載されているのかについて、思いを巡らすことが許されました。

私共も、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」をはじめ、日常生活の事柄全てを大切な“想念の御用”として、明主様と共にあるメシアの御名みなにあつて、どのような時も“天国人”としてお使いいただいていることを忘れないようにしなければと思わせていただきました。

さて、先月の「月次祭」でお伝え致しましたように、⑤之光教団においては、全ての信徒家庭に「大光明」のご神体奉斎の道が開かれました。

私は、神様が「大光明」のご神体を通して、私の心に何を養い育ててくださり、何に目覚めさせてくださっているのか、その神様のみ心を全身全霊にお受けしてまいりたいという思いを、今継続して大切にさせていただいています。

世界救世教⑤之光教団の信徒である私共は、み教えの神髄を求めご教導くださる教主様に導かれて、明主様を模範として、神様の子供たるメシアとして新しく生まれることを目指しています。

私共は、この全く新しい信仰を通して、本当の親であられる神様が、全てのものの中に常に存在しておられることに目覚めさせていただきました。

そして、私共は、一人一人のうちに、神様の「大光明輝く光」が、私共を再び天国に迎え入れてくださる神様の親心が、始めから、今も、そしてこれからも、どのような時も存在しておられることに気付かせていただきました。

教主補佐は、“唯一の神様・主神が親でいらっしゃる天国の家族があるんです”という趣旨のお話をしてくださり、“生まれてきてくれてありがとう。天国の家族なんだよ。天国の家族になろうね”とおっしゃってくださっている神様の親心が、私共のうちに始めから存在していることをお伝えくださっています。

私共は、皆等しく“天国の家族の一員”であることを思い出し、全てのものと共に、その天国に心を向け立ち返るための養いをお受けしていることを知るものとしていただきました。

私は、このような神様のご存在と親心を忘れたまま、何か事あるごとに、神様に対して愛と赦しと救いを求め一喜一憂を繰り返す堂々巡りの生き方を続けてまいりました。私は、神様の親心を蔑ろにしてきた自分の姿に、教主様のご教導を通して初めて気付かせていただきました。

教主様は、神様が、そのような私共を「夜昼転換」と「メシアの御名」に

ある赦しをもって、一人残らず天国に迎え入れようとしてくださっていることをお示しくさせていただきました。

私は、最近ある出来事を通してハッとさせられたことがあります。

私は、教主様が、み教えの神髄を誰よりも強く求められ、ご教導くださっているにもかかわらず、み教えとお言葉を全く別のもののように比較分析している傲慢さが、自らのうちに存在していることに気付かせていただきました。

そして、自分が宗教学者や宗教評論家ではなく、明主様の専従者、布教師であり、信徒であることを、私はもう一度しっかり自らに問い掛けてみなければならぬと思わせていただきました。

私は、神様が私共人類のことをどれほど大切に思っているのか、全ての人に対して輝く未来を開いてくださっている神様の赦しがどれほど大きなものであるのかについて、そのほんの一端かもしれませんが、今心震える思いで受け止めさせていただいております。

私は、神様が「大光明」のご神体奉斎を通して、こういった「天国の福音」を私に告げ知らせてくださっているように思わせていただき、何とありがたいことなのか、このままでは誠に申し訳ないことである、本当に畏れ多いことであると、多少なりとも悔い改める心をもって、同時にあふれんばかりの感謝をもって、わが家のご奉斎を心待ちにさせていただいております。

私は、教主様がご教導くださる「明主様の全く新しい救いの福音」が、全てのみ教えを貫いている明主様の命懸けのお叫びなのではないかと受け止めさせていただいております。

ですから、私は、この福音が世界救世教の信仰にとって絶対外せない極めて大切なことであると、だからこそ、明主様の信徒として、⑤之光教団の皆さまと共にこの全く新しい信仰の道を、ひたすら歩ませさせていただきたいと強く思わせていただいております。

私は、神様が私共に対し、「天国人として迎え入れたよ」とおっしゃってくださっている親心を始めからお受けしていたことに思いを馳せ、皆さまとご一緒に、「私の中に成し遂げられている神様の親心を全身全霊にお受けさせていただきました」という思いを、明主様と共にあるメシアの御名みなにあつて、神様にご奉告させていただきたいと思えます。

そして、「おひかり」を胸に、この喜びをもって、全ての人の中にも、神様の「大光明」の光が、愛と赦しと救いのみ心がいつも輝いていることを、「真善美」配布を力とする「会う、聞く、浄霊」という「想念の御用」を中心に、

一人でも多くの方々にお伝えしてまいりましょう。

それでは、ただ今より教主様のお言葉を賜ります。

私共は、本日賜りますご教導を全身にお受けし、全てのみ教えの源にある主神のご意志により一層目覚めさせていただき、「御生誕祭」に向けてのご神業奉仕をもって、神様の親心にひたむきにお応えさせていただきますでしょう。

本日も、こうしてご一緒に、明主様と共にあるメシアの御名^{みな}にあつて、全てのものと共に主神にお仕えさせていただいておりますことに感謝申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。